



4号  
2013.2.1

「自然や環境」のことに触れたくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。

CONTENTS

- インタビュー:  
尼崎市立成良中学校の環境学習
- 情報交流コーナー:あま・あま・ポン  
うんぱく2012、エコキッズメッセ2012サマー  
あまがさき物語、サポーター数珠つなぎ
- 尼崎21世紀の森LIFE:  
フットサルを楽しもう!  
野外音楽イベント AMAFES2012  
What's「尼崎21世紀の森づくり?」



「エイ・エイ」環境や自然に親しみ、創造的なライフスタイルを応援するフリーマガジン 2013年2月1日発行 NPO尼崎21世紀の森 <http://www.amashin.net/>

# 「あましん」 地域の環境文化の創造活動を紹介します。

「第2回 あましんグリーンプレミアム」の最優秀賞や各部門賞が決定しました。

「あましんグリーンプレミアム」は、環境問題が深刻化しているなかで、環境改善に寄与する地域のみなさまの優れた技術や製品・工法、取組みやアイデアにスポットを当て表彰することで、新技術の開発や環境文化の創造につながることを願って、一昨年創設いたしました。  
この賞が、地域経済の発展と暮らしやすい環境づくりのお役に立てるよう、みなさまと共に地域に根ざした賞に育てていきたいと考えております。

- ◆環境事業部門(事業者を対象)
- ◆環境活動部門(法人・個人・団体を対象)
- ◆環境アイデア部門(個人・団体を対象)



武庫川河川敷33,000平方メートルに約550万本のコスモス:髭の渡し花咲き会

## 第2回 あましん グリーンプレミアム授賞式



橋本博之理事長/髭の渡し花咲き会:松井定雄会長

「第2回あましんグリーンプレミアム」の最優秀賞は、髭の渡し花咲き会の「コスモスの種まき事業」が受賞しました。阪神大震災後、一時は不法投棄で荒廃していた武庫川河川敷に花の種まき活動を継続し、コスモス園へ育て上げた同会のボランティア活動が高く評価されたものです。




## 尼崎21世紀の森 あましん植樹祭

あましんでは、地元企業として環境保全活動に積極的に取り組むため「あましん緑のプロジェクト」を立ち上げ、尼崎市沿岸の国道43号線以南の臨海地域に緑豊かな環境をつくり、人と自然の共生をめざす「尼崎21世紀の森づくり」に参画しています。その活動の一環として、平成24年10月13日に「尼崎の森中央緑地」において、「あましん植樹祭」を開催しました。公募で集まっていた方と当金庫職員と合わせて約500名が参加し1,000本の苗木を植樹しました。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。

 **尼崎信用金庫**

AMASHIN

<http://www.amashin.co.jp>

あましん  検索



INTERVIEW

「インタビュー！環境にイイコト。楽しめるコト」では、地域で環境活動に取り組まれている方や団体を紹介します



芦屋市奥池

私の環境学習の原点は、教師になって8年目におこった阪神淡路大震災(平成7年1月17日)にあります。救助ボランティアや避難所となった学校の中で、日常的に命と向き合う経験をした事で私自身の教育への考え方が変わっていったような気がします。

# 環境を学ぶ事、それは、命を学ぶ事。

尼崎市立成良中学校：中岡 禎雄



中岡 禎雄(なかおか さだお)さん  
尼崎市立成良(せいりょう)中学校  
教諭/技術課教員:担当教員歴27年  
昭和40年生まれ。大阪府堺市出身  
趣味:ものづくり、動物、アウトドア(カヌー、乗馬等)  
子どもたちに環境学習を通じて自然ともっと親しんでそして、同化して、自尊心、生きていく為の本能のような潜在能力を呼びさましてほしい。

◆**巣箱は、私たちの街の縮図**

平成14年に、まずは、小さな好奇心から数名の生徒とともに巣箱を作り、成良中学校、そして、六甲山の友人の別荘に吊るし置いてみました。これがすべての始まりです。

なんと、その年の春、六甲山の巣箱には、山雀(やまがら)が卵を産み、そしてヒナが孵り無事に巣立っていきました。一部始終を観察できた生徒たちは、この小さな出来事に大きな感動を得て、皆涙しました。

◆**大きなムーブメント**

成良中学校が、まわりの高校、大学、団体、そして企業を巻き込んで、教育の枠を超えたムーブメントに成りつつある中で、この活動に対して、多くの表彰を受けました。

成良中学校の受賞歴

- 2011年11月 『第46回全国野生生物保護実績発表大会』環境大臣賞を受賞
- 2012年8月 『第19回コカ・コーラ環境教育賞』大賞
- 2012年11月 兵庫県の中学校では、初の『ユネスコスクール』に選ばれました。

今後は、グローバルなネットワークの中で学校と交流と生徒間・教師間で情報や体験を分かち合っ、さらなるムーブメントの発信校として、また、尼崎が世界に誇れる中学校にしていきたいと思えます。



自然豊かな地域の巣床/芦屋市奥池

一方、成良中学校に吊るし置いた巣箱にも卵が産み落とされました。しかし、孵化しませんでした。観察していた生徒たちが原因を探る為、巣箱を解体して愕然となりました。本来、卵の孵化には、柔らかく保温性が高い、枯れ草、コケと動物の毛で何層にも積上げられた巣床があるはずなのですが、都会の成良中学校の巣床には、キャラメル包装紙、ペットボトルの蓋などのゴミが敷き詰められていました。

◆**街からゴミを無くし、森を創ろう**

翌年の平成15年、成良中学校ネーチャークラブの生徒さんが中心となり、まずは、中学校周りの清掃美化活動と校内の緑化活動を始めました。

◆**運河の水をきれいにした藻類などを堆肥にして、校舎屋上に農園を**

北堀運河の水質浄化施設は、運河の水を人工の溪流、水路と砂浜で流し、二枚貝と藻類の力で浄化する全国でも先駆的な施設です。

現在、徳島大学の研究チームと成良中学校ネーチャークラブが中心となって、(水質悪化の原因である)プランクトンを食する二枚貝や、栄養塩を養分とする藻類が、水をきれいにしたあとで掻き集め、たい肥に変える活動を行っています。

そして、校舎の屋上を利用して、そのたい肥で農園を作り、オレンジ、ブルーベリー、ミント、イモ類、綿花など、多様な作物を育て、循環型社会モデルの実践をしています。

収穫した作物で、収穫祭として、カレーを作り、また、バイオディーゼル燃料を作る実験にも成功して、当中学校の環境学習にも役立てて



運河水質浄化活動



伝統文化の授業

◆**無形文化遺産を学ぶ**

成良中学校では、自然とともに環境学習のもう一つの要素、文化を学びます。

その国や地方ごとに固有の文化の中で人間が生きています。平成23年から、坪井美津子教諭を中心に、琴・三味線・尺八の授業を行っています。平成25年3月23日(土)には、日本の伝統音楽界の著名人の方々をお招きして、視聴覚室でミニコンサートとワークショップを開催する予定です。

# あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり協議会」の活動の様子をお知らせします。



HPもチェック!  
http://ama21mori.net/

## うんぱく2012～ 尼崎運河博覧会 ウンガはボクらの遊び場だ

「ウンガはボクらの遊び場だ」をテーマに、尼崎で活動する団体の皆様と尼崎運河博覧会実行委員会を結成し、平成24年9月29日(土)に「2012 尼崎運河博覧会」を北堀運河で開催しました。今年で第6回目となり、これまで産業を支えてきた臨海地域の運河を市民が楽しみ水に触れられる場として活用する、毎年の恒例イベントとして定着してきました。

当日は、恒例の運河クルージングを始め、船あそび(手こぎボートの体験)、キッズコーナー、メイドイン尼崎の食材を使ったお馴染み



のamaバーガーなどが販売されるオープンカフェ、市内の中学生高校生、「あまおと」によるライブのほか、今回初めてのコーナーとして、水上さんぽ(パドルボード)体験会、フリーマーケットを開催しました。

水上さんぽは尼崎の運河の水が少しづつきれいになっていくことを実感し、運河を楽しむイベントとして「うんぱく」以外にも不定期に開催しています。

開催予定などはフェイスブック(尼崎21世紀の森)に随時掲載しています。また、日々の運河をとりまく予定も更新していきますのでぜひチェックのほど!

## エコキッズメッセ2012サマー エコで遊ぼうエコキッズメッセ



「エコキッズメッセ」とし、子どもたちを対象とした企業、団体等のブースを出展する「エコブース」、クイズ等盛り込みながら楽しく学べる「ミニ環境教室」、電気自動車の展示・試乗を行う「エコな乗り物大集合」とプログラム満載です。さらに、今年は、環境教育に熱心に取り組む尼崎市立成良中学校を初めて舞台に、若い力も加わった開催となりました。

「エコブース」では、森のクラフトづくり、廃油でのキャンダルづくり、100%リサイクル段ボールで作った滑り台やゲームで遊べるエコキッズパークからソーラーハイブリッドカー工作体験など、幼児から小中学生、さらに大人も童心にかえり、新たな自分を発見するなど、計約700名の方に楽しんでいただけたようです。

今年もさらに、充実して「身近に」楽しく、環境について学べる場が提供できるよう実行委員会もはりきっていますので、ぜひお楽しみに!



尼崎で活動する団体の皆様とエコキッズメッセ実行委員会を結成し、平成24年7月29日(日)に、今年で5回目となるエコキッズメッセ2012サマーを開催しました。今年のテーマは「エコで遊ぼう」

## サポーター 数珠つなぎ



今回の「サポーター数珠つなぎ」では、森部会に参加されている村上義徳さんをご紹介します。

Q いつ頃尼崎21世紀の森に関わられたのですか?  
A 平成18年3月に神戸の親和中学校 親和女子高等学校を退職した後すぐに関わり始めました。それまでは、親和女子で43年間教職を務めていました。専門科目は生物で、特に微生物でした。大学を卒業してから30年間は理科と生物の担当をし、その後は教務や校長を務めておりました。

Q 関わられるきっかけは?  
A 退職した後、趣味の高山植物の観察も兼ねて樹木医師の資格を取得しました。樹木医師に關連したボランティア活動で、教育と違つことがしたいと思つてた矢先、当時の尼崎市市長の白井文さんに頼まれたのがきっかけでした。白井さんは私の教え子でも優秀な生徒でした。

Q 活動の中で、印象的なこと、うれしかったことを教えてください。  
A 森部会の活動を進めていく中で、尼崎南部グリーンワークスという市民組織を立ち上げ、すき間緑化に取り組んできました。尼崎南部の工場地帯には、多くの小規模工場がありますが、工場立地法では小規模工場には緑化義務がありません。まとまった緑地が無理なら、すき間を緑化すればよいのではないかと考えていたところ、尼崎鉄工団地協同組合の

## あまがさき物語

【第13回】

今回の「あまがさき物語」は、尼崎で物づくりに取り組む、尼崎21世紀の森づくり活動に取り組んでおられる日本山硝硝子株式会社さんをご紹介します。

日本山硝硝子(株)さんは、1914年にガラス材料の珪砂採掘販売からスタートし、製びんという物づくりを始められ、今年で創業99年を迎えられる日本のガラスびんの40%を製造する国内トップメーカーです。ガラスびんの製造だけでなく、現在はペットボトルや、ペットボトルのふたなどさまざまな容器を作っておられます。西宮で創業され、2000年に尼崎市西向島町にプラントができ、2009年6月には、本社機能が移転されました。



ガラス製造工程では、たくさんエネルギーを使用するため、環境負荷の軽減に向けて、びんの軽量化や、ガラスに着色するのではなく、びんにフィルムを貼ったり、静電塗装したり、よりリサイクルしやすくするさまざまな取り組みをされています。

特に軽量びんでは、超軽量びんの開発で、CO<sub>2</sub>の発生抑制に寄与する取り組みを強化されているそうです。

CDRの中には、世界中の企業に提供されているびんが約5000本も集められています。特に、お酒が多く、世界中のお酒、日本ではさまざまな清酒、焼酎類、そしておなじみの健康ドリンクなど、どれも身近にあるものばかりでした。中には、子供の頃に見た、昔の懐かしいびんもたくさんありました。

びんの底をみて、YH、YOなど記号が刻印されているのが、日本山硝硝子(株)さんの製品。ちなみにYHは播磨工場を意味し、加古郡播磨町で作られているとのことでした。

早くからリサイクル事業にも着手され、いまやガラスびんはリサイクル優等生として定着しています。

尼崎21世紀の森づくり協議会も参加している「エコキッズメッセ実行委員会」へ



の参画など、さまざまな活動に取り組んでおられるだけでなく、「キッズニア甲子園」にパビリオン「ガラス工房」として参加、環境学習プログラムを展開し、子供たちにはびんの循環のしくみである3R(リデュース・リユース・リサイクル)への理解を深めてもらう取り組みをされています。

昨年末から始められた「苗木の里親」のほ場や、「尼崎21世紀の森沿道緑化事業」による本社前の緑地も見せていただきました。向島地区という工場の多い地域で、道路沿いに植え込まれた緑が、地域のお住まいやお勤めの皆さんを癒してくれるでしょう。

日本山硝硝子(株)さんのように、地域の各企業さんにこのように取り組みを広げていくことがとても重要だと思えます。

尼崎21世紀の森づくり協議会の活動も10年の節目を迎え、より市民企業を含めた取り組みの輪が広がっていきけるようにしたいですね。



楽しみにしてね

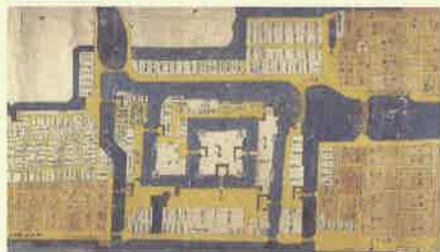
(発信部会 田中弘之)



尼崎臨海部にかつての自然環境=美しさを取り戻したい。  
日本の発展を支えてきた誇りを取り戻したい。  
かつてこの地に存在した人間の活気を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『尼崎21世紀の森構想』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

江戸時代



この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか?

明治から昭和



この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか?

近年



巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷え込んでいる事をご存知ですか?

一緒に『尼崎21世紀の森づくり』をしませんか!  
編集スタッフを募集しています。

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ: 2013年4号(2月1日発行)  
NPO 尼崎21世紀の森 Aa 編集局  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三  
Editor/Writers 池田 和也 田中 弘之 森本 和昌  
薄井 洋一 中川 貴美子 藤原 悟  
小平 祥生 春田 孝文 山崎 衛  
作田 祥介 森上 恒  
Designers 児玉 泰江 竹岡 寛文 杉本 さやか  
鳥山 大樹 ヒロコ・T グレース  
Collaborators 尼崎21世紀の森づくり協議会  
同事務局

Print ウニスガ印刷(株)

明治の初め



この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか?

昭和40年代



この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか?

これから『尼崎21世紀の森構想』



かつての自然環境=美しさ  
日本の発展を支えてきた誇り  
人間の活気  
を取り戻したい。

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。ナカナカ素敵な計画だと思いませんか? 100年間のこの計画、進めて行けるのは、この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

編集後記  
僕は、尼崎市民でもないし、戦後の高度経済成長を知る大人でもなく、ただの学生だが、戦後の尼崎は工場が立ち並びとても環境が悪かったと聞いたことがある。  
しかし、それが今の日本を支えたわけで、「悪いこと」だったと僕は思わない。  
よく『尼』は治安が悪いや、物騒という固定観念を持たれているが、僕は全然そんな風には思わない。むしろ人懐っこく魅力的な街だと思う。この森づくりを通して『尼』の魅力を感じてくれる人が増えたらいいなあ。  
100年後、この森がきっかけで『尼』は全国的に魅力的な街になるかもしれません。それを自分達で作れるって、とっても素晴らしいことだと思っんです。  
(藤原 悟)



尼崎スポーツの森フットサルパーク  
フットサルを楽しもう!

尼崎 21世紀の森エリア内にある『尼崎スポーツの森フットサルパーク』も今年で開園から6年目を迎えます。また、近年のサッカー及びフットサルブームで毎月延べ4000人を越える利用者で盛り上がってきています。施設も全ナイター設備完備のフットサルコート三面で、その感触は「これ本当に人工芝なの?」と疑うくらいにFIFA公認イタリヤ製人工芝を採用、最高の条件でプレーできること間違いなしです。

フットサルスクール

スクールの詳細はこちら <http://www.a-spo.com/futsal/charge.html>

尼崎の森中央緑地芝生広場のフットサルパークは、フットサルスクールが充実していていつもにぎわっています。幼稚園から一般社会人まで多様なコースに分かれ、仕事帰りの一人で参加してもいつでもゲームが楽しめます。スクールは、夜11:00まで(一般チームでのコートレンタルなら、深夜2:00までプレー可能)。

イケメン揃いのフットサルインストラクターたちを率いておられるのが、畑浩平主任(31)(セレゾン・プロジェクト有限会社)です。畑さん自身、子供の頃からサッカー一筋でブラジルにサッカー留学も経験されたそうです。今の夢は「フットサルスクールの子どもたちがもっと、もっと、上達していくのを見る事」とお話しされました。

畑 浩平主任



AMAFES2012

in 中央緑地芝生広場



AMAFES2012が中央緑地芝生広場で11月4日(日)、開催されました。受付で、入場料2,500円とドリンク代500円の合計3,000円を支払い、会場へ。ちなみに前売り券だと500円安いのでおすすめです。会場の芝生広場に入ると、若干肌寒い天気ではありましたが、多くの方が参加されました。  
音楽イベントと言う事で、若者が中心のイベントと思いきや、意外にも家族で参加されている方も多く、芝生広場で子ども達と遊びながら、音楽と出店を楽しんでいる様子が見られました。  
このイベントについて副実行委員長である寺坂美(みづな)かよこ(かよ)さんにお話を伺いました。

JR立花駅前たこ焼き屋のオーナーが「尼崎で音楽フェスをやりたい」と熱く語っていたことに感化され、それがきっかけで一緒に具体的な話を煮詰めていきました。  
尼崎が元気がなくなっているから、音楽を通じて元気にしていきたい、という想い「Act Local, Think Global」をスローガンとしました。  
少しでも尼崎にこんないい場所があることを若い世代に知って欲しいと思います。今回のAMAFESはまだ2回目の開催ですが、来年以降もみなさんに楽しんでもらえるように、メンバーみんなで話し合っって、楽しんでいきたいと思います。